

富士山植林地における小動物調査報告

室村 聡

1. 調査のきっかけ

2011年12月に自然学クラブの会員発表会に参加した時、参加者がそれぞれの抱負を述べる時があった。その時につい口を滑らせてしまったことがあとあとまで心にしこりとして残り、目的や方法やその他勝算など考えることなく取り組んでしまったことが正直なところで、そもそもの始まりと言える。

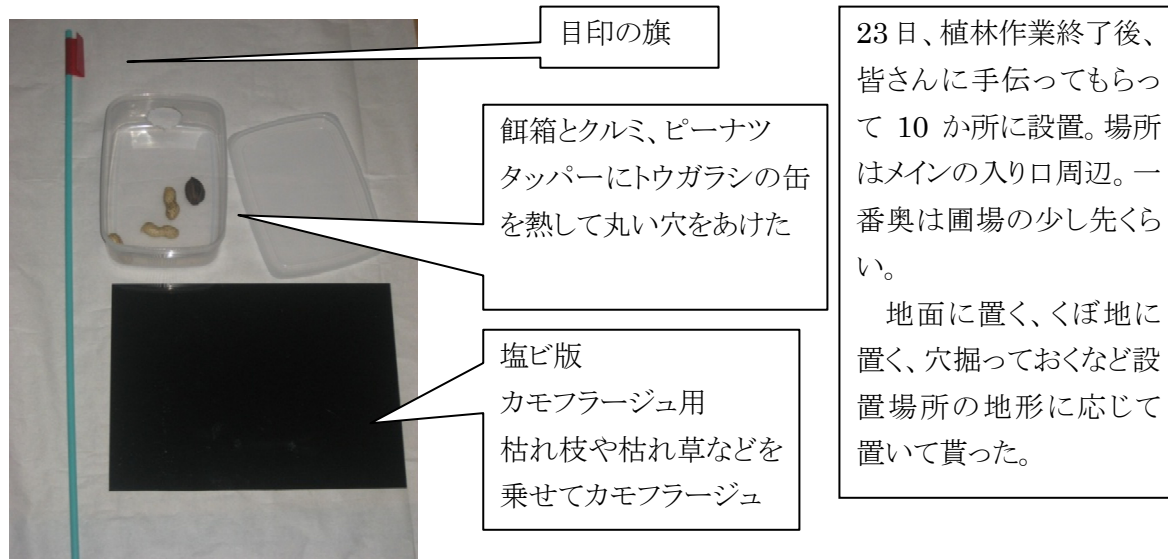
植林活動に参加していると、シカ、イノシシ、ウサギ、鳥類の足跡、食痕、糞、荒らしまわった痕、鳴き声などで様々な生物が生息していることは確認できる。しかし、植林地で活動する生き物の中には目・耳にすることはないだろうが他にもいるのではないかと考えてはいた。

そこで前述のように口が滑り、小動物の調査をしてみてもはどうだろうかと言ってしまったのが始まりのきっかけ。

2. 準備

12年4月22、23日にNTT労組の植林活動があるのでそれに合わせて調査道具を準備した。

写真参照 それぞれ10組用意した。



3. 1回目の調査（4月23日設置 4月25日 餌箱回収）

餌箱の回収結果

餌箱	クルミ	ピーナツ	尿	糞	そ の 他
1	なし	なし	(有)	(有)	
2	なし	なし	(有)	(有)	クルミは箱から30cmくらいにおき忘れ
3	なし	なし	(有)	(有)	ピーナツの食べかす1個分の殻残置
4	なし	なし	あり	(有)	尿らしき液体あり
5	なし	なし	あり	あり	
6	なし	なし	あり	あり	

7	なし	なし	あり	あり	
8	なし	なし	あり	あり	
9	なし	なし	あり	あり	
10	なし	なし	あり	あり	

(有):最初は気付かず見落としていた



2 番の餌箱



忘れ物のクルミ



3 番の餌箱とピーナツの殻



4 番の残尿



5 番の糞と尿

糞も尿も良く見ればわかるのだが、ピーナツの殻に目を奪われたものだから…
思い込みで見ていると失敗のもと

糞について

乾いた糞を取りだし並べてみる。糞の数は全部で 42 個、1 個のえさ箱に平均 4 個と言ったところか。形と大きさに分けてみると判然としないながらも 4 種類に分けることができそう。



→ピストルの弾丸型 大きさの違いはあるが。
→細く長い、ピストルの弾丸型とする

太さが太い
俵型

明らかに小さい

丸っこいのもあるが、俵型の変形か



ピーナツの殻を両側からかじっている。
アカネズミは両側からかじるというが。

3 番のピーナツの殻

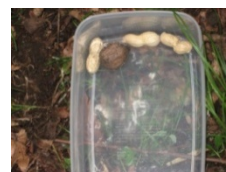
4.2 回目の調査（6月18日設置 19日回収）

今回は正面広場から縄文タワーへ続くメインストリートの左右に10か所設置する。

道の左右斜面に3か所ずつ。道沿いに2か所。そして道右側斜面を下った沢地形の中に2か所設置する。沢地形の中はけものの足跡はあるものの薄暗いうえに湿気が多いので小動物は来ないだろうと予測しながら設置する。

餌箱の回収結果

餌箱	クルミ	ピーナツ	尿	糞	
1	なし	なし	あり	なし	道左側
2	残	なし	あり	あり 1	道右側
3	残	残	なし	なし	沢地形
4	なし	なし	なし	なし	道右側
5	残	残	なし	なし	沢地形
6	なし	なし	あり	あり 1	道左側
7	なし	なし	あり	あり 1	道左側
8	なし	なし	あり	なし	道右側
9	残	なし	あり	あり 1	道わき
10	残	なし	あり	あり 1	道わき



2番のセットの様子と残されたクルミと糞

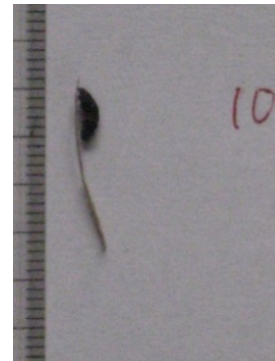
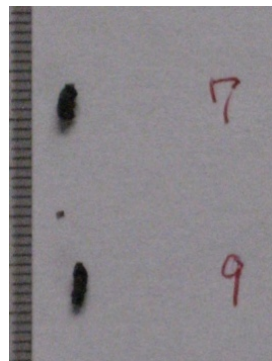
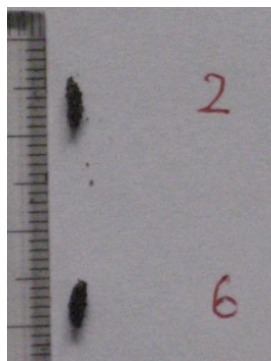
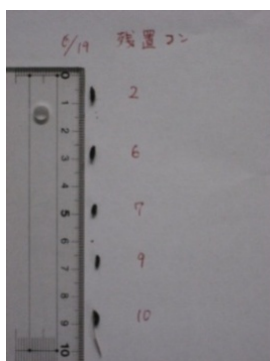
3番の様子と残されたクルミ・ピーナツ



餌箱は前回同様、荒らされたあとはなくセットした時と同じ状態だった。餌箱の小さな穴から入り込んでクルミやピーナツを運び出したのだろう。

9番の様子と残されたクルミと糞

残置の糞



今回の残置糞は5個、前回に比べて格段と少ない。
また、形も単純で、形、大きさのばらつきもなく前回「ピストルの弾丸型」と分類したものと似ている。一種類の小動物が餌箱に来訪した可能性が高いと思われる。

1, 2回目の調査では目に見えないものを相手にしたので糞や尿まで宝物のように見えた。今から思うと滑稽でもある。

5. 3回目の調査(8月12日)

初めての夜間観察

日帰りできる利点を生かして夜間観察を試みた。正面広場の周囲5か所に、各セット間10m以上の間を置いて餌箱をセットする。セット完了 17:00

①②は今回初めて設置。

③④⑤は1回目のときに設置した付近で、前回は餌を取りに来ていた。再び来るだろうと考え設置した。⑤は「自然林復元」看板の裏辺りからの見通しがよくて、姿を隠して観察するのに都合がよい場所と考えて設置。ただ道路際なので見通しがよくて明るいのは難点とは思った。

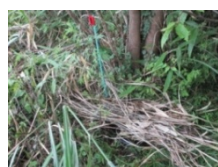
入口を観察者の位置から見えるようにセット。赤セロハンでカバーしたライトを入口に当て動きが見えるようにした。中のピーナツがライトを受けて良く見えて、餌を取りに来る姿が見られると期待した。

30分ごとに5か所を巡回して様子を見た。

回数	時間	
1	17:30	周囲は明るく、鳥、セミの鳴き声が聞こえる。 変化なし
2	18:00	変化なし
3	18:30	周囲が少し暗くなりかける。鳥の鳴き声やみ、虫の音が聞こえる。変化なし
4	19:00	林の中はかなり暗くなる。虫も鳴きやむ。明りなしにはメモも取れない。同上
5	19:30	明りなしには歩けない。①ピーナツ1個なし、2個目が入口に置き去り。餌箱に入れなおしておく。②③④⑤は変化なし。 見回り後もう一度①を見に行くと3個目のピーナツが入口そばに置き去り、中に入れクルミと一緒にする。⑤に当てているライトを持ってきて20:00まで観察するが、姿を見せない。
6	20:00	②③④⑤の順に見て回る。②ピーナツ、クルミともなくセット回収 ③④⑤変化なし ①に戻るとピーナツなし、クルミのみ残っている。見通しが悪いので餌箱に近づきすぎて警戒されたのだろうか。ライトを⑤へ戻し⑤の観察を続ける。
7	20:30	③④変化なし ①クルミ残、セット回収 ⑤を引き続き観察する 21:00 まで

結局期待の⑤にはちっとも寄り付かず、しかも③④にも来ない。21:00で観察を終了する。

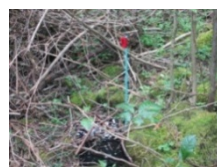
餌箱のセットの様子



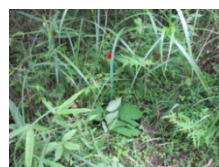
①



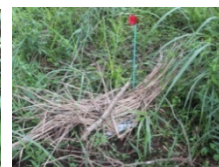
②



③



④



⑤



餌箱⑤拡大



餌箱⑤ 観察場所から

今回の観察から

帰宅してから 12 日の日没時間を調べると 18:30 頃であった。①②の様子から考えると姿は確認できなかったが、餌取りの活動時間は日没後 1 時間くらい経過したところからの 1 時間くらいの間と考えられる。

ピーナツ、クルミとも殻つきのまま運んでいるので巣へ運んでたべていると思われる。暗いので十分見まわしたわけではないが付近には殻など残存物は見当たらなかった。

①の観察時に(20 分ほど)餌を取りに姿を見せなかったのは、他を巡回している間にピーナツを見事に持ち去ったことを考えると、観察者の姿がバレバレだったのだろう。バレバレだと思うのは、上にも書いたように、セットしたえさ箱の見通しが悪くてセットから 2~3m の距離しか離れずに観察していたからだろう。

植林地の夜は短時間であったが意外と静かだった。遠くのキャンプ場の声や花火の音などが聞こえてきた。あとは時々通る車の音くらい。

次回の観察について

再び夜間観察を引き続きすること

時間的には日没後 9 時頃まで、特に日没後 1 時間すぎ頃からの 1 時間を重点的に行う

観察者の姿が見えないようにする工夫

6. 4 回目の調査(9 月 22 日)

正面広場の 3 か所に餌箱をセットする。17 時から 30 分ごとに廻って調べることにする。

1 番、前回もセットしたところ 西側境界付近の樹林に入っすぐ。

2 番、入口正面の沢状地形のやや高まり 木の根もとあたり

3 番、入口正面、2 の東寄り地形が高まった辺りの古木の切り株の中。



餌箱 1



餌箱 2



餌箱 3



7 時 餌箱 1

クルミが
一個残
っている

5 時から 30 分ごとに順番に見に行くが 6 時 30 分まで餌箱には変化が見られない。

この時間帯は日没後の光が残っていてかなり明るい。本が読める明るさ。

7:00 そろそろ暗くなりかけてきたが明りなしでも歩ける 1 番の箱にはクルミだけ残っている。ピーナツは持ち去られている。2, 3 番は変化なし。

改めて 1 番の観察

1 番にピーナツを 3 個追加し、5m くらい離れたところに陣取り明りを当てて動きを観察する。しばらくすると右方向から生き物が動いている物音が聞こえる。左方向からも音がする。そのうち姿が見えないのに餌箱の中へ入る音がする。そしてピーナツを持ち去っていく足音まで。姿の見えない相手にこちらにも姿を隠してはどうにもならないと思い、思い切って餌箱に近付き斜め上からライトを照らし、立ったままでじっとしていることにする。そしてカモフラージュの枯れ草もどけて箱がすっかり見えるようにする。中にはクルミが 1 個ある。追加したピーナツがもうない。1 匹の足音だと思っていたが、複数いたのだろう。

しばらくするとまた動き出すカサカサという音がする。しかも左右から、どちらからきてもいいように凝視していると左から 1 匹やってきてサッと箱に飛び込み、クルミをくわえて出ていく。カメラの音を立ててはと遠慮しながら出す。その時は動きを止めてネズミはあたりをうかがっているが全く我関せずのように石の上に登りクルミにかじりつこうとする。カメラのスイッチを入れるとまた動きを止める。その時あわてたのかクルミを岩の下に落としてしまう。が、さるもの、あわてずクルミを拾い上げ藪の中へと姿を消してしまう。姿は見たが写真はとれず。7 時 35 分頃 1 番はここまでにして終了する。

7 時 45 分頃から 2, 3 番の観察に移る



2 番の餌箱
クルミがなくな
っている。



3 番の餌箱
ここもクルミがなくな
っている。

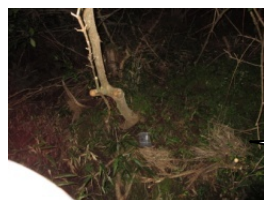
2 番の餌箱のすぐそばでライトを当て、じっと立って待っている。10 数分くらいたつたところから動き回る音が聞こえてくる。右から来るか、左から来るかカメラを用意して待っていると左からきて箱に入る。そしてピーナツをくわえ逃げ去る。



2 番に来たネズミ
ここにいまチュウ



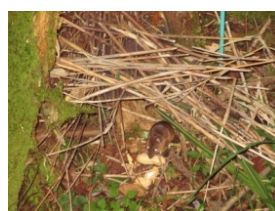
くわえて逃げて行くところ
私、逃げまチュウ



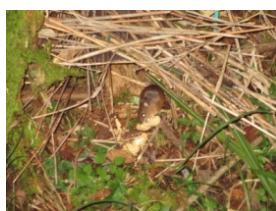
2 番の餌箱

それではと 3 番に行くところちょうどピーナツをくわえたネズミが逃げ去るところだった。また来るだろうとしばらく待ったが動きがないので 2 番に戻ると箱は空っぽになっていた。わずかの時間に持ち去るとは敵ながら天晴れとしか言いようがない。

3 番の餌箱のすぐそばに立って待つ。この餌箱はピーナツが 2 個箱の前に転がっていたのでカメラフラッシュはそのままにしておく。10 数分じっと待っていると左前方から物音がする。比較的近いところだ。間もなくネズミが現れピーナツをその場で食べ始める。このネズミは度胸がよくてライトが当たっていてもカメラのスイッチを入れても全く動じない。そのため一番たくさんのポーズを見せてくれたし、最後にはすみかのあたりも教えてくれた。足音は良く聞こえたが、ピーナツをかじる音や噛む音はものすごく小さいのか、聞きとれない。(聞き洩らしたのかも)



8:23 食いついた



8:24 2 個目に食いつく



どれ、こっちは



両手? で持って
食べている



まだ残っているぞ



おいしいでチュウ



食った、食った



フー、満足でチュウ



8:25 巣穴へご案内



食べ残しの殻



1. 今回初めて姿が確認できた。今までは残された糞や尿が頼りだったから大きな前進だ。今回は限られた時間帯(日没後の数時間)での調査だったので、もう少し時間をかけた調査をする必要もあるだろう。昼間も活動はしているのだろうと思うので昼間の観察も行う必要がある。
2. 一つの餌箱の付近には、複数のネズミがいるようだ。音の聞こえる方向と持ち去った方向、などを元にしての推測だが、この辺りも確認できるようにしたい。
3. アカネズミを事典で調べてみるとかなり行動範囲が広い(1日に数 km 動く高い能力を持つ)。ということは植林地の範囲を越えて活動していることになり、たまたま通りかかりに餌箱を見つけたとも考えられる。そうすると古株に入っていっただけは巣ではなく単なる姿隠しなのだろうか。まだ調べる必要はありそうだ。
4. 植林地内のごくごく一部分での調査なので、もっと範囲を広げて植林地内の生息分布を調査する必要もありそうだ。
5. 真中の沢地形のところも調査すること(まだ先の話)も必要だが…。場所による生息動物の違いなども判るかもしれない。
6. 植林地の中は考えている以上に静か。今回のネズミたちの動く足音は非常によく聞こえる。おおよその位置の見当もつくくらい。これではネズミの天敵に存在を教えているようなもの(あまりにも平和的に行動しているように見えたので)。だが、天敵たちの動きや姿、気配はちっともないように思う。調査した時間と天敵の活動時間のズレもあるのだろうか、植林地にいるのかも疑問に思う。人間に聞こえる物音と動物たちが感じる物音は違うのだろうか。

今後のこと

ネズミの姿を確認できたことで舞い上がっているが、門外漢が思い付きだけで考え、行動することには限度があるし、ネズミというより小動物の本当の姿を突き止めることができないことは目に見えている。4回の調査に関しても多くの方から意見・批評などを頂き、真摯に耳を傾けなければならないし、たくさんの協力者や専門家とともに調査を継続していかなければさらなる前進はないだろう。

来年は4月頃から調査を再開したいと思う。そのためチームとして取り組めるように植林作業の中で協力して頂くとともに動物調査のお手伝いをしてくださる協力者や専門家を求めていると思う。